

2014年度に学科改編し、海洋総合科に一本化した宮城水産高(生徒381人)は、1日、改編後初となる5類型116人の卒業生を送り出した。新設した「調理類型」の卒業生20人のうち約半数は、日本料理店など調理関係の仕事に進む。船舶・食事を担当する司厨員として働く予定の男女2人は、希望の船出に決意を新たにしている。

海洋調査船を運航する日本海洋事業(神奈川県横浜磯子)への就職が内定した阿部嘉菜さん(17)。「石巻市鹿島南」は調理関係の仕事の中でも水産業に携わる道を選びたいと思って司厨員を志した。「船員が多いため、スピードが求められると聞いた。不安もあるけれど、陸と違っ

た環境に早く慣れるよう頑張りたい」と張り切る。船員養成の学科教育や練習船による航海訓練を行う独立行政法人海技教育機構(横浜市)に内定した吉沢秀一さん(18)。「石巻市日和が丘」は、曾祖父が昔、司厨員として働いていたことを家族からよく聞いていたとい



司厨員が内定し、決意を胸に宮城水産高を巣立った阿部さん(左)と岩沢さん

宮城水産高・調理類型1期生

司厨員に「食の勉強 船で生かす」 2人内定

う。「同じ道を歩むことになり、身が引き締まる思い。学生が乗る実習船なので、メニューの取れた食事を提供したい」と抱負を語る。

進路指導部長の平居高志教諭によると、本年度は5類型合わせて30人が船舶の仕事に内定した。例年20人前後のため、06年度以降で最も多いという。

海洋総合科長の鈴木秀一教諭は「調理類型は週2回の7時間授業に加え、土曜日もある回ほど授業がある。その上、関連科目は60分以上が赤字扱いという厳しさだ。よく頑張ったと思う。社会に出ても努力して、誠実に歩んでほしい」と期待する。

同校は学科改編に伴い、厚生労働省から卒業時までに無試験で国家試験の調理師免許が得られる調理師養成施設として、県内の公立高校で初めて認可を受けた。

石巻地方 高校卒業式 新課程 研究 会 開 催